

ホームページ部門 受賞作品一覧

受賞	施設名/ホームページ URL	審査員コメント
最優秀賞	特別養護老人ホーム くわのみ荘 (熊本県) http://www.kuwa.or.jp/	スキップ可能なオープニングの動画は、とても印象的でほのぼのとさせる 情報は充実しており、イラストや写真をうまく使い施設の雰囲気が良く伝わってくる
優秀賞	特別養護老人ホーム いいたてホーム (福島県) http://www.iitate-home.jp	フラッシュをうまく取り入れたハイセンスな仕上がりとなっている 苦情解決体制を明示している点など、積極的に情報公開している姿勢も評価された
企画賞	特別養護老人ホーム 加茂川荘 (岡山県) http://www16.ocn.ne.jp/~kamogaii/	入所待機者順位やショートステイ空き状況が画面で確認できる。頻繁な更新作業が必要となる機能だが、利用者の欲しいと思う情報を提供しようとする姿勢が評価された
企画賞	特別養護老人ホーム よねやまの里 (新潟県) http://www7.ocn.ne.jp/~matunami/	トップページに方言での挨拶があり温かい 「活動日記」は写真やコメントも多く、施設の活動の様子がよくわかる
デザイン賞	社会福祉法人 福寿園 (愛知県) http://fukujuen.or.jp	文字級数と背景色をワンクリックで変更できる点が高く評価された 音声読み上げソフトへの対応も意識されており、多くの人に見て欲しいという想いが伝わる
デザイン賞	特別養護老人ホーム むつみ苑 (広島県) http://www.mutsumien.or.jp	写真が効果的に使用され、動きのある画面構成は表現豊かで目を惹いた 画面上の動きは、介護予防の方法を連続的に見せるといった場合などでも活用できるだろう
アイデア賞	特別養護老人ホーム きく (東京都) http://www11.ocn.ne.jp/~kyouwa/	料理レシピの紹介にあわせて、管理栄養士に問い合わせできる点が評価された 「表示画面を大きくする方法」を示すなど、見る人への配慮があって良い

平成17年度全国老施協 広報コンテスト

ホームページ部門 総評

社団法人シルバーサービス振興会 高橋 望

昨年度より新たに設けられた「ホームページ部門」に、今年度は総数57点の応募があった。一次審査で選出された10点の中から、最優秀賞1点、優秀賞1点、企画賞2点、デザイン賞2点、アイデア賞1点を決定した。審査員は、全国老施協広報委員会 矢野委員長、折腹副委員長、太田幹事、高橋の4名。

審査は「デザイン」、「内容」、「見やすさ」に加え、「操作のしやすさ」や「雰囲気の伝わりやすさ」、「わかりやすい表現の工夫」などの要素で選考、さらに一般投票の得票数も参考にしている。応募作品はどれもわかりやすくまとまっており、基本的な情報は不足のないものが集まっている。特に「情報を発信する」という製作者側の視点から「情報の読まれかた」という読み手の立場にたった画面作りに視点が移ってきたことは進化であり、ホームページが広報ツールの1つとして広く定着してきたことをうかがわせた。

最優秀賞には『くわのみ荘』（熊本県）が一致して選ばれた。一般投票でも最多票を獲得している。スキップ可能なオープニングの動画は、とても印象的でほのぼのとさせる。情報は充実しており、イラストや写真をうまく使い施設の雰囲気が良く伝わってくる。世代交流の場となるおもちゃ図書館「わいわい」は、もっとPRできる構成でも良いように感じた。一般投票では「見やすい、わかりやすい」とのコメントが多く寄せられた。

優秀賞は『いいたてホーム』（福島県）。シンプルな構成でわかりやすくまとまっており、フラッシュをうまく取り入れたハイセンスな仕上がりとなっている。ホームページ上で苦情解決体制を明示している点など、積極的に情報公開している姿勢も評価された。

企画賞の『加茂川荘』（岡山県）は、入所待機者順位やショートステイ空き状況が画面で確認できる。頻繁な更新作業が必要となる機能だが、利用者の欲しいと思う情報を提供しようとする姿勢が評価された。「贈り物」では利用者や職員の表情を見ることができ、生き生きとした毎日が伝わる。一部分に文字の読みづらい箇所があり、背景色との調整が必要。『よねやまの里』（新潟県）は、トップページに方言での挨拶があり温かい。「活動日記」は写真やコメントも多く、施設の活動の様子がよくわかる。入所申込書類やサービスマップがダウンロードでき綺麗な出力ができるなど、利用者への配慮も評価されている。一方、これらの操作は煩雑になりがちなので、今後PDFファイルの活用なども検討されたい。

デザイン賞には『むつみ苑』（広島県）。写真が効果的に使用され、動きのある画面構成は表現豊かで目を惹いた。画面上の動きは今後、例えば「いきがいだより」のなかで介護予防の方法を連続的に見せるといった場合などでも活用できるだろう。もう1つの『福寿園』（愛知県）は、文字級数と背景色をワンクリックで変更できる点が高く評価された。技術的な問題だが、拡大できない文字があるのは残念。音声読み上げソフトへの対応も意識されており、多くの人に見て欲しいという想いが伝わる。

アイデア賞は『きく』（東京都）。料理レシピの紹介にあわせて、管理栄養士に問い合わせできる点が評価されている。「表示画面を大きくする方法」を示すなど、見る人への配慮があつて良い。「ボランティア活動のご紹介」では小学生向けの「しおり」が閲覧できる。

ホームページは「更新の速度、回数」「情報の相互性（2WAY）」という点で広報紙とは異なる特性を持つ。例えば掲示板の活用によって幅広い世代と意見を交換したり、タイムリーなイベント告知によって地域住民との交流を図ったり、その機能を十分に活用して様々な可能性を引き出していきたい。ホームページの製作技術は日進月歩だが、「綺麗な画面作り」に注力するだけでなく、常に読み手を意識し「利用しやすさ（アクセシビリティ）」と「使いやすさ（ユーザビリティ）」に配慮したホームページに挑戦して欲しい。

こうしたホームページは今後、施設と地域とを結ぶ重要な役割を担っていくことが期待される。